

発達障害って何だろう？

発達障害には、自閉症・アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などがあります。

一口に発達障害といっても状態像はさまざまで、同じ診断名であっても、その人の性格、発達状況や年齢置かれた環境などによって目に見える症状は異なります。どんな能力に障害があるか、どの程度なのかは人によってさまざまなのです。中には優れた能力が発揮されている場合もあります。発達の偏りによる苦手な分野もあることから、周りの人に理解されにくい障害といえます。

発達障害のある人は、さまざまな困難を抱えながら成長します。「障害」という言葉は、生活や成長の過程で「困難さ」が生じる場合に付け加えられる言葉ですが、その人が置かれた場所で「困難さ」を減らすことができれば「障害」ととらえる必要はなくなります。

発達障害のある人々がより充実した社会生活を送るためには、発達障害について正しく理解し、その人の困難さをしっかりと把握していくことが必要なのです。

早期発見・早期療育

早期発見・早期療育は、決してラベルを貼ることではなく、本人の困難さをできるだけ早くから軽減し、持つて生まれた能力を伸ばしていくためのものです。

逆に、こうした困難さが周囲の人に理解されず、支援のない環境が続いた場合、周囲から過剰な適応を強いられたり、本人の意図しないさまざまな失敗体験を繰り返したりすること、パニック、いじめ、不登校、学業不振、場面緘黙、睡眠障害、心身症、家庭内暴力など、精神面や行動面で何らかの二次的問題を引き起こすことが少なくありません。

子どものつまずきや行動に表れるサインなど、周囲の「気づき」から子どもへの理解・支援が始まります。通常3、4歳までにその特性がはっきりしてきますが、言葉が出ない、目線が合わない、いつも激しく動き回っている、何かをひどく怖がるなど、人とかかわり方や感覚がどうもほかの子とは違うという印象を持った場合や、大きなパニックを起こすなど子育てが難しいと感じた場合は、一人で悩まず、療育センターなどに相談しましょう。

それぞれの障害の特性

注意欠陥多動性障害（ADHD）

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害（LD）

- 「読む」「書く」「計算する」などの能力が全体的な知的発達に比べて極端に苦手

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

- 基本的に言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心の偏り

療育センターでは

遊びやゲームを通してルールや言葉を覚え、友だちとのかかわり方を学んでいきます。子ども一人ひとりの好きなことや得意なことを見つけ、遊びの中で自信をつけていくことが大きなねらいの一つ。そして保護者は活動の様子を後ろから観察し、かかわり方や対応の仕方を学んでいきます。子どもが良い行動をしたらすかさずほめる、「投げたらダメ」ではなく「優しく置こうね」など伝え方の工夫、シンプルな部屋の作りと目で見て分かる手掛かり、必要のないものは隠しておくといった環境づくりなど…。ちょっとした対応の工夫や環境調整によって子どもたちは驚くほど変化し、本来持っている力を発揮できることがあります。

療育開始当初、落ち着かず離席の多かった子、輪の中に入って活動することができなかった子、一度怒ると気持ちの切り替えができずに引きずっていた子たちが、1年の間に確実に成長し、少しずつ発達のステップを上がっていきます。保護者も我が子の成長を実感し、いつの間にか子育てに前向きになっている姿が見られるようになります。



運動（転がしドッジボール）



自由遊び（ブロック）

保護者の声

Sちゃんママ：歩き始めるのが遅かったこともあり、心配して医療・相談機関などで話を聞きました。各機関のそれぞれの立場でアドバイスをいただくのですが、どのように考えて判断したらいいのかわからないこともありました。保育園選びにも悩みました。しかし、保育士の加配をしていただける支援もあり、楽しく通うことができています。来年は小学校です。支援学級などを利用しながら、次につなげて伸ばしていきたいです。親として「今できること」をしていきたいと思っています。

Kちゃんママ：近所の子ともたちと遊ぶ姿を見て、早い段階で気付きました。一つの遊びに集中せず、次から次にいろんな遊びに飛びつくのです。子どもなら誰しもある傾向ですが、あまりにも顕著でした。転勤族だったのでなかなか情報が入ってこなかったところはつらかったですね。今は幼稚園や療育センターでいろいろと相談や話ができるので支えになっています。発達障害について説明するものもなかなか力がいるます。もっと理解が広がればいいですね。

Rくんママ：少し言葉が遅いとは思っていましたが、わたしの場合は3歳児健診までまったく気付かずにいました。言われてみると当てはまる部分があるなという感じでした。療育訓練を受け始めてできるようになってきました。動き回ることも減り、かなり落ち着いてきたように思います。この子にあった居場所を用意してあげたいと思っています。

療育相談の中で

子どもの様子や置かれている状況について丁寧に話を聞いていきます。客観的に改めて考えていくと「なぜそのような状態にあるのか」「どうしてそのような行動をとったのか」など、理由や対応の手掛かりが見えてきます。

できるところから一つずつ取り組んでいくことで、次第に子どもの特性をつかむことができ、かかわり方が分かってきます。そしてそれが子どもの変化や行動の改善につながっていきます。

大切なこと

発達障害を持つ子どもたちには、周りの人の気付きと正しい理解、切実な適切な支援が必要です。大切なことは、どんなことができて、何が苦手なのか、どんな素顔な面を持っているのかといった「その子」自身に目を向けてあげること。そして、一人ひとりに合った支援があれば、だれもが自分らしく自分自身の人生を生きていけるのです。みんなと一緒に…。

増えているの？ 原因は？

発達障害という困難さをもった人はまれな存在ではなく、身近にすることが分かってきました。平成14年度に文部科学省が実施した調査によると、通常学級にも何らかの発達障害が疑われる子どもが6・3%いるという結果が出ています。40人学級ならば、2〜3人は困難を抱えている子どもがいるということです。その数は年々増加傾向にあるともいわれています。

発達障害の原因は、特定されていないものの、さまざまな研究により、脳の器質的・機能的障害によってもたらされるものであることが分かっています。つまり、生まれつき何らかの原因で、脳の働きがうまく機能しないということです。決して親の育て方や周囲のかかわり方が原因で生じるものではないのです。

しかし、適切な環境整備、育児、療育・教育により、本人の困難さを和らげ、支援していくことは可能です。「ゆつくり成長していく」子どもたちかもしれません。その子なりの成長を見守ることが大切です。それは障害の有無にかかわらずいえることかもしれません。